

..... 編集後記

◆ 2月に入って早々、痛ましい事故が2件起こりました。一つは、スペースシャトル「コロンビア号」の宇宙事故です。乗組員7名全員が死亡しましたが、アメリカは今回の犠牲にもかかわらず宇宙ステーション計画を遂行するとのこと。失敗を恐れず前進するという姿勢は我々も学ぶべきでしょう。もう一つは、死者130名以上を出した韓国大邱市の地下鉄火災事故です。東京で地下鉄に乗る機会の多い私には他人事とは思えません。事故後、日本でもいろいろ対策が練られているようですが、他人まかせにせず、自らの身は自分で守るという姿勢も大切だと思います。

◆ 今月号は、昨年9月に行われました新潟地質情報展の特集です。場所は、市の中心街からやや離れた新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」で行われましたが、落ち着いた雰囲気の中、パネルの展示や体験学習のコーナーも充実していました。展示解説も懇切丁寧になされており(私自身も部外者のような顔をして聞いていたのですが)、入場者に好感をもたれたのではないのでしょうか。

◆ 今月号の表紙には、蟹沢聰史氏寄稿の『文学作品の舞台・背景となった地質学-2-』からの写真を

掲載しました。寄稿は、ゲーテの『『ファウスト』における水成論と花崗岩の成因ならびに『イタリア紀行』における地質学的観察について』と言う興味深い内容ですが、その中にイタリアのプッツオリ、セラピス寺院の柱の写真があります。この柱には貝殻の痕跡がこびりついており、それがライエルの『地質学原理』の口絵に使われ、斉一説の根拠の説明に用いられたそうです。地質学の発展を語る上で欠かせない被写体ということなので、表紙に使わせていただくことにしました。

◆ さて、今月で私は編集委員長の座から降ろさせていただくことになりました。一年間と言う短い(長い?)期間でありましたが、試行錯誤を繰り返しながらも、なんとか責任を果たせたのではないかと感じております。もちろん、つつがなく本誌を毎月発行できましたのも、投稿して下さった執筆者の方々、編集委員や原稿査読者のご協力のおかげと感じております。これらの方々に感謝するとともに、今後の本誌の発展と次期編集委員長をはじめとする関係者の方々のご活躍をお祈りし、私の退任の挨拶とさせていただきます。

(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎
副委員長：谷田部信郎
委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 029-861-3754
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第583号	2003年	3月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 〒実費		
2003年3月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2003 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ